

高齢者の意思決定支援制度を構築する 開放型経済実験拠点の形成



社会人や高齢者の方に、本学経済実験センターの実験室にお越しいただき、ゲームやアンケートを通じて経済行動を収集しています。

z-Tree (※) を使用した経済行動調査の様子①

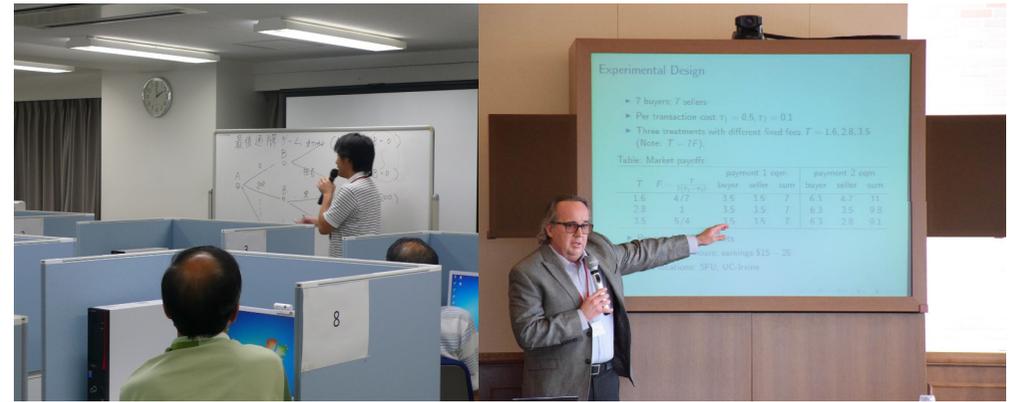
※ z-Tree プログラム・・・チューリヒ大学で開発された経済実験用のプログラム

活動の概要

目的	高齢社会の日本における経済活動の重要な担い手である社会人・高齢者の経済活動データを収集・分析し、政策提言の遂行
連携メンバー	各市町村に在住の社会人・高齢者 関西大学社会学部教授 小川一仁
活動地域	関西地方 / 関西大学経済実験センター
活動期間	2014年～(継続中)

連携の経緯

2014年6月、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択に基づき、関西大学経済実験センターが設置されたことを契機として連携を開始した。経済学の理論的成果が社会人・高齢者の経済行動を説明できるかどうか検討するため、本学主催の公開講座受講者や一般の方から希望者を募り、アンケート調査と経済実験を実施することとなった。



z-Treeを使用した経済行動調査の様子②

国際学会の様子

解決すべき課題

- (1) 「オレオレ詐欺」等の高齢者を狙った犯罪対策
- (2) 高齢世代・中年世代の健康政策
- (3) 地域活性化に資するリーダー発掘

大学の役割

本学に拠点を置く経済実験センターでは、高齢者を中心とした社会人に簡単なゲームとアンケートを実施し、様々なデータを収集する。そこで収集したデータを分析し、以下の項目を検討し明らかにする。

- (1) 高齢者が経済的意思決定に関してどのような特徴を持っているのか
- (2) 詐欺や健康などで問題を抱え込みやすい人はどのような人か
- (3) 地域のリーダーとして資質がある人はどのような人か

以上の項目を明らかにし、研究内容によっては実験終了後すぐに調査の狙いや結果について簡単な解説を行う。最終的には、研究が一段落した段階で参加者に対し調査結果の配布を考えている。

成果

- (1) 赤の他人を信頼しすぎる人は「振り込め詐欺」に遭いやすい等、騙されやすい性格・性質の解明
- (2) 高齢者および社会人の経済行動データの蓄積
- (3) 経済実験センター主催の国際学会、ワークショップの実施

今後の展望

- (1) 地方の高齢者、社会人の経済的特徴を探る
- (2) 経済的特徴から政策提言を目指す
- (3) 研究プロジェクト自体の国際化
- (4) 現場での社会実験の立案と実施 (計画中)

研究者の紹介



社会学部 教授
小川 一仁
(おがわ かずひと)

2005年、京都大学大学院経済学研究科修了。博士(経済学)。2011年に関西大学社会学部に着任。専門は実験経済学。プロジェクトHPは<http://www2.kansai-u.ac.jp/cee/>

関西大学主催
経済行動調査への
参加のご依頼

2015年
9月5(土)・10日(木) 参加は1回または2回
(9/5,10から1回、9/17,19から1回)

17日(木)・19日(土) 各日13:00-15:30ごろ

社会人や高齢者の皆さんの経済行動を調査・分析し、政策提言を行います。

主催: 関西大学経済実験センター
文部科学省資金・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

【会場】 関西大学経済実験センター
シオネットワーク階研究機構5F 地図は裏面参照

【対象】 社会人(学生は不可)

【定員】 各回28名(最大)

【謝礼】 最大3000円 (早急2000円)

【交通費】 往復1000円まで実費をお支払いします

【要】 簡単なアンケートやゲームに参加していただき、リスに対するお考えや行動の傾向を明らかにするための調査を実施。資料に関する参加費を免除し、匿名化の上で統計学的に分析します。個人情報は厳重に管理・取扱いをさせていただきます。

【ご注意】 過去の実験に参加された方は、電子メールでお電話でお問い合わせ下さい。

参加申し込み・お問い合わせは裏面を参照ください。